



2025

総合 I

[国語]

注 意

1. 試験時間は、国語と社会を合わせて8：50～9：40の**50分**です。
2. 問題は㊦から㊧まであります。
3. 解答用紙に、受験番号と氏名を書きなさい。
4. 解答はすべて**解答用紙**に書きなさい。
5. 先生の指示があるまで、問題用紙をあけてはいけません。
6. 問題についての質問はうけません。
7. 試験が終わったら、解答用紙を2枚とも表にして、並べておきなさい。

一 次の文章は、筆者が「Kさん」という若者に対しての手紙という形式で、自分の考えを書いたものです。文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

自意識、このやっかいなもの

(中略)

① 挨拶をしなくなりたる少女いて成長とはかく黙すことなり

(嶋田武夫作)

「① 成長とはかく黙すことなり」と思春期から青年期へのこの変化をあたたかく、肯定的に受けとめようとする大人たちがちゃんといてくれるのに、そんな大人の存在も目に入らないほど、Kさん、今、あなたは自意識でふくれあがって、他人の目に自分がどう映るか、そればかりが気になっていくかもしれません。髪がどういふスタイルにまとまっていようが、スカート丈がどうだろうが、歩き方がどうだろうが、そんなことには他人はほとんど誰も関心など払っていないのに、当人だけはありもしない他人の目に全神経をはりつめて、対応しようとしている。いや少なくとも中学生の私はそうでした。容姿にまるで自信のなかった私でも、一日何回鏡を見たことでしょうか。【一】何もかもがぎくしゃくとうとうとうしくて、自分でも、挨拶ひとつ、なぜできないのかわからない。自分で自分をもてあまし、もう不機嫌に黙るよりほかなくなってしまう。多くの大人が自分自身のその頃の感覚を忘れて、挨拶ぐらいすればよいものを、と若い人たちを責め、挙げ句の果てには、校区一丸となって挨拶運動まで始め、挨拶の強要へと向かう中で、「成長とはかく黙すことなり」と詠む方に新聞の歌壇で出会ったとき、私は、② ああ、いらしてくださいだった、と心底嬉しくなったものです。中学生の頃にこの短歌に出会っていたら、どんなによかったかと思いましたが、でも、七〇代に入った今だって、やっぱり嬉しい。というのも、知らない小学生や中学生に大声で挨拶される度に、私は正直居心地の悪さを覚えていたからで、けれどこんなことを言ったら、いい歳をして、と笑われるでしょうか。でも、誤解しないでください。私が覚えるこの居心地の悪さは、たぶん黙すことを許さない大人の仲間に自分が否応なく入れられて、若い人と向かい合わせられることからくるものです。【二】

小さい声での挨拶ならいいの？ ええ、まだましです。そこには、かろうじて③ その人がいてくれるから。でも、大声はつらい。当人が無理して自分を消しているような気がするからです。あるいはそうすることをすでに習慣にしまっているようにも見えることが。

前に記した少女のようにわめくのもいい。仲良しの友だちと語らうのもいい。一人で黙々と歩くのもまたいい。せめて登下校の、誰の指

示も受けずにいられる時間、あなたがあなたでいられますように。【Ⅲ】

でも、これは一〇代のあなたより先に、「^④挨拶をするみんないい子」などの標語をつくる大人たちに言うべきことですね。あなたは無理して知りもしない大人たちに挨拶をする必要はないのではないでしょうか。【Ⅳ】

私は挨拶そのものが要らないと言っているわけではありません。自然に出てくる挨拶なら何も言うことはありません。欧米を旅していると、目が合うとお互いにこっとする。なんと気持ちのいいことかいつも思います。でも強制される挨拶だったら、そんな挨拶に優先してなすべきことがある。そう思うのです。

挨拶に優先してあなたがなすべきこと？ そう。それが短歌にうたわれた黙すこと。

現在にはにかむことにも、口数の少ないことにも、沈黙にも、なかなかプラスの価値が置かれません。さらに一人でいることにも。TVをつければ、登場する人、登場する人、みんな朝からにぎやかに笑って、しゃべりまくり、コミュニケーション能力こそ現在を生き抜くためには不可欠と、社会のリーダーを自認する人々は大声でのたまい——何がコミュニケーションかの吟味なしに——、独り居の大切さや、黙することの大切さを感じる人の声はなかなか若い人たちの耳には届きにくくなっています。【Ⅴ】

ほんとうにひとりでもいいんですよね？

かつて短大に勤務していた時、私は新入生にくる年もくる年も、せめてこの短大にいる間だけでも、独り居の時間をたっぷり持つようにと話しましたが、授業が終わると、きまつて何人かの学生に廊下でそつと呼び止められ、「^⑤ほんとうにひとりでもいいんですよね」と念を押されました。口数少なく、ひとりでいること。それがますますできにくくなっていることを痛感させられる、とりわけこの十数年でした。

もつとも口数が少ないこと、ひとりでいることは、本来こんなふうにつながって考えてはいけなかもしれないかもしれません。口数の少ない人はひとりでいることが多くなりがちだけれど、この二つは直接関係があるわけではない。口数が少なくても、いつもグループの一部になっている人もいるし、おしゃべりでも、独り居の時間をちゃんと確保している人はいますものね。

ただ、私に気がかりなのは、黙っていたいのに、無理をしてでも、しゃべらなくてはいけないと考える人が一〇代の人々の中にますます増えているように見えること、内容はどうであれ、^⑥しゃべるといふ行為そのものを価値と考える人々が多くなっているように思われることで、こういう状況のもとでは他者の声に耳を傾けたり（小さな声はなおさら）、自分自身の内なる声に耳を澄ますことはむづかしくなっ

てきているのではないかということです。

(注5) 拙訳『ゲド戦記』(岩波書店)の第一巻「影との戦い」第二章に魔法使いの賢人オジオンが、弟子入りしてきた血気はやる少年ゲドに「聞こうというなら黙っていることだ」と短く諭す場面があります。出会ってから四〇年以上になるこの言葉を、私は今も繰り返し思い出します。

自分自身の内なる声を聞くことができこそ、他者の気持ちを推し測ることができ、その声に耳を傾けることができると思いますし、自身との対話ができこそ、他者との対話もできると思うのですが。いや、もしかしたら、その逆かもしれません。他者の声に耳を傾けることができこそ、初めて自らの声に耳を傾けることができる。そんな気もしてきます。自分自身の中にたくさん他者がいるわけですし。

(清水真砂子『大人になるっておもしろい?』による)

(注1) 挨拶をしなくなりたる少女いて成長とはかく黙すことなり…短歌。「挨拶をしなくなった少女がいて、成長とはこのように沈黙することだ」という意味で、若い時期の微妙な心情について述べている。

(注2) 思春期…主に中学生・高校生頃の時期をさす。この時期に体や心が成長し、様々な変化がある。

(注3) 肯定…「それは間違っていない」と認めること。

(注4) 前に記した少女…本文のこれより前の部分で、例として書かれている思春期の少女のこと。

(注5) 拙訳…自分が翻訳したものを、へりくだって言う言葉。

問一 本文からは次の一文が抜けています。一文を入れるのにもっとも適当な位置を本文中の【I】～【V】から選んで、記号で答えなさい。

思春期から青年期のこの自意識の、なんとやっかいなことか。

問二 傍線部①「成長とはかく黙すことなり」とありますが、なぜこの短歌の作者は「少女」が沈黙することを「成長」と表現したのですか。

これより後の本文を読み、その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア ちぐはぐな気持ちに振り回されて悩んでしまうことが、複雑な自分の感情と向き合う時期が来たことの証であるから。

イ 大人同士のコミュニケーションを行うためには、自分の意見を言うべき場面かどうかを判断できなければならないから。

ウ 「皆と良い関係性でいるべきだ」という考え方に流されないことが、孤独に負けない自立心を養うことにつながるから。

エ 他人に対してつい取ってしまった反抗的な態度を反省することが、将来的にさらに良い人間関係の構築に役立つから。

オ 自分とは異なった考え方を持つ人に寄り添えるようになるためには、あえて何も言わずにいることも大切であるから。

問三 傍線部②「ああ、いらしてくださった、と心底嬉しくなった」とありますが、筆者はどのような人に出会ったことを「嬉しく」思ったのですか。三十文字以内で説明しなさい。

問四 傍線部③「その人」とありますが、どのような人のことを指していますか。その説明としてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

ア 周囲に合わせながらも、自分の気持ちを大切に守り続けている人。

イ 大人からの評価を気にして、自分の意志がなくなってしまった人。

ウ ひかえめな挨拶でも、自分の存在に気付いてもらいたいと思う人。

エ 「いい子」でいようとした結果、善悪の判断がつかなくなった人。

オ もし自分の本心に反していても、周りの期待に応えようとする人。

問五 傍線部④「挨拶をするみんないい子」とありますが、筆者は本文中で「挨拶」についてどのように考えていますか。筆者の考えとしてもっとも適当なものを次の中から選んで、記号で答えなさい。

- ア 積極的なコミュニケーションが求められる現代社会においては、挨拶は円満な会話のきっかけとして有用である。
- イ 人間関係を築く上で大切だが、大人が挨拶にこだわり過ぎると子どもが自分と向き合う機会を奪うことにつながる。
- ウ 大人は大きな声で挨拶する子どもを「いい子」とするが、本来の自分を伝えるためには小さい声で挨拶すべきだ。
- エ 生きる上で本来それほど重要ではないため、周囲に流されて無理に挨拶するくらいなら黙っている方が良い。
- オ 挨拶とは心が通い合う中で生まれるものであり、形式的なやりとりでは本当の信頼関係を築くことは不可能だ。

問六 傍線部⑤「ほんとうにひとりでもいいんですよね」とありますが、なぜ「ほんとうに」と念を押したのでしょうか。六十五字以内で説明しなさい。

問七 傍線部⑥「しゃべるといふ行為そのものを価値と考える人々」とありますが、これと反対の考えを持つ人はどのような人ですか。これ以前の本文中から二十五字以内で抜き出し、最初と最後の三字ずつを答えなさい。

問八 二重傍線部「コミュニケーション」とありますが、筆者はコミュニケーションとはどのようなものと考えていますか。解答欄に合うように、五十字以内で説明しなさい。

問九 本文についての説明として適当なものを次の中から二つ選んで、記号で答えなさい。

- ア 筆者自身が普段感じていることや体験したことをもとに、読者に語りかけるように考えを述べている。
- イ たとえ話や比喩表現を用いて、異なった考え方を認めない現代社会の実状を若者の視点から描いている。
- ウ 他作品からの引用を行い、社会とのずれに悩む若者たちの気持ちに寄り添いながら主張を論じている。
- エ 筆者の元教え子との対談形式で、挨拶が抱える問題点を指摘しながら読者に解決策を問いかけている。
- オ 読者へ問いかけつつもわざと解答を明示しないことで、主体的に問題意識を持たせようとしている。
- カ 現代に生きる若者が抱える諸問題について、過去の社会と比較することで解決の糸口を模索している。

二

次の語句・漢字についての問いにそれぞれ答えなさい。

問一 次の①～③について、波線部の言葉の意味としてもっとも適当なものを次の中からそれぞれ選んで、記号で答えなさい。

① 今日の会議はとりとめのない話ばかりだった。

ア あまり発言がないこと。

イ おもしろみがないこと。

ウ まとまりがないこと。

エ 結論が出ないこと。

オ 抽象的ちゅうしょうであること。

② やぶやぶから棒に重大な相談を始めた。

ア 突然とつぜん。だしぬけに。

イ よく考えないままに。

ウ 乱暴な態度で。

エ 他の話をさえぎって。

オ 一人だけを信用して。

③ となり町のチームは目の上めの上のこぶだが、なんとか来月は勝ちたい。

ア そればかり目に入って全体が見えなくなること。

イ 希望が見えずに暗い気持ちになってしまうこと。

ウ 実力が同じくらいで、どうなるかわからないこと。

エ 自分より上で、何かとじゃまに感じるもののこと。

オ いると困るが、同時に必要でもある複雑な関係のこと。

問二 波線部について説明したあとの意味を参考にして、空欄X・Yに入る適当な言葉を漢字一字で答えなさい。

① 大器晩（X）を信じて、すぐにあせらない方が良い。

……優れた人物は後になって結果を出すということ。

② 二人は兄弟だが、性格は（Y）とすつぽんだ。

……比較ひかくにならないほど違ちがっていること。

三

次の①～⑤の傍線部ぼうせんのカタカナを漢字に改めなさい。

① デンゲンコードにパソコンをつなぐ。

② 米も麦もトウモロコシもコクくルイである。

③ 子どもの優れたソシツみぬを見抜いて大きく成長させる。

④ 毎日センメンジヨで菌きみがきをする。

⑤ 迷った人を正しい方向へミチビク。

注意 字数制限の問題では、句読点も一字として数えます。

[illegible]

受 験 番 号		フ リ ガ ナ	
		氏 名	

得点	
----	--

